

## 会 議 録

- 会議名称 令和2年度第1回渋川市環境審議会
- 日 時 令和2年8月25日(火) 午前10時から午前11時38分まで
- 場 所 本庁舎第2会議室
- 出席者 《審議会委員》  
佐藤委員、近藤委員、中島委員、南雲委員、角田(雅)委員、  
伊東委員、坂田委員、茂木委員、山本(景)委員、桂委員、  
石田委員、角田(裕)委員、田部井委員、荻野委員 以上14人  
《事務局》  
高木市長、田中市民環境部長、内田課長、照井課長補佐、  
割田主査、下田(孝)主任

### 概 要

- 1 開会
- 2 委嘱状交付
- 3 市長あいさつ
- 4 自己紹介
  - (1) 委員
  - (2) 事務局
- 5 議事
  - (1) 議案第1号 会長及び副会長の互選について  
満場一致で次のとおり決定した。  
会長 佐藤孝史委員  
副会長 吉原明浩委員
  - (2) 議案第2号 渋川市バイオマス活用推進計画(改定版)について
    - 質疑1 当初計画で示されていた庁外推進委員会が、今回の改定でなくなっているのはなぜか。
    - 答弁1 当初は、計画策定に当たり御協力いただいた組織に、進行管理でも御意見をいただくことを想定していた。しかし、その役割は当審議会が担うことが適切であると考え、審議会の議題としてきた経過がある。そのため、今回の改定により、実態に沿った形に改めた。
    - 意見2 バイオマス活用の現状と目標について、順調に進捗している項目はきちんと評価した上で、うまく進んでいない項目については新たな切り口を考えるようにしないと状況が改善しないのではないか。賦存量が変化している項目はその理由を明らかにすることで、取組の成果であることをきちんと示さないともったいないと思う。

答弁2 賦存量が変化している項目について、説明を追加したい。

意見3 動植物性残さについて、堆肥化しても使い道がないと不法投棄につながりかねないという難しさがある。

## (2) 議案第3号 渋川市環境基本計画環境施策報告書について

意見1 ヒメギフチョウについて、まだ生態が解明されていない点が多い上、自然環境の変化もあってなかなか思い通りに数を増やせていない状況である。活動をする人数も足りているとはいえないため、できれば多くの方に御協力いただきたい。

質疑2 それぞれ事情があって空家になると思うが、こういった対応をしているのか。

答弁2 空家等対策推進事業は、空家をリフォームして活用するための補助など、次につなげるための取組である。

## (3) 議案第4号 渋川市地球温暖化対策実行計画2018-2022及び渋川市環境物品等調達方針に基づく令和元年度実績について

質疑1 民営化した施設を考慮せずそのまま計上すると、市役所の排出量が大きく削減した形になる。しかし、その分の排出量自体が減ったわけではないので、適切な表示ではないのではないのか。

答弁1 数値の変化をそのまま表しているためそのように見えるが、御指摘の点は報告の中で言及している。なお、コロナの影響もあり、民営化施設分を除いても排出量は減っている。

質疑2 グリーン購入について、対応品は一般的に高価であるため民間では手を出さないことが多いが、官公庁は率先して調達することになっている。ところで、物品購入だけでなく役務も対象であると思うが、どうなっているのか。

答弁2 現時点では、(印刷以外は)目標として設定していない。

質疑3 渋川市のゴミ排出量が県平均を上回っているようだが、どのような理由が考えられるのか。

答弁3 生ゴミが多い要因の一つは、観光地であることと考えている。全国的な傾向を見ると、温泉地のゴミ排出量が多い。

意見4 渋川市は、環境基本計画に災害対応の視点を含めるなど、環境施策では先進的であると思う。今年の猛暑で、一人暮らしの高齢者がエアコンを付けずに家にこもっているような話もあり、今後計画を見直す際には、そういった視点での対策を盛り込むとさらによくなると思う。

## 6 その他

### (1) 視察研修について

例年実施している視察研修について、コロナ拡大防止のため多くの施設が受け入れを見合わせていること、またバス移動による危険性を考慮し、今年度は見送ることとなった。

(2) 今後の予定について

年度内にもう1回会議を開催する可能性があることを確認した。

(3) 渋川市バイオマス活用推進計画（改定版）への意見の反映について

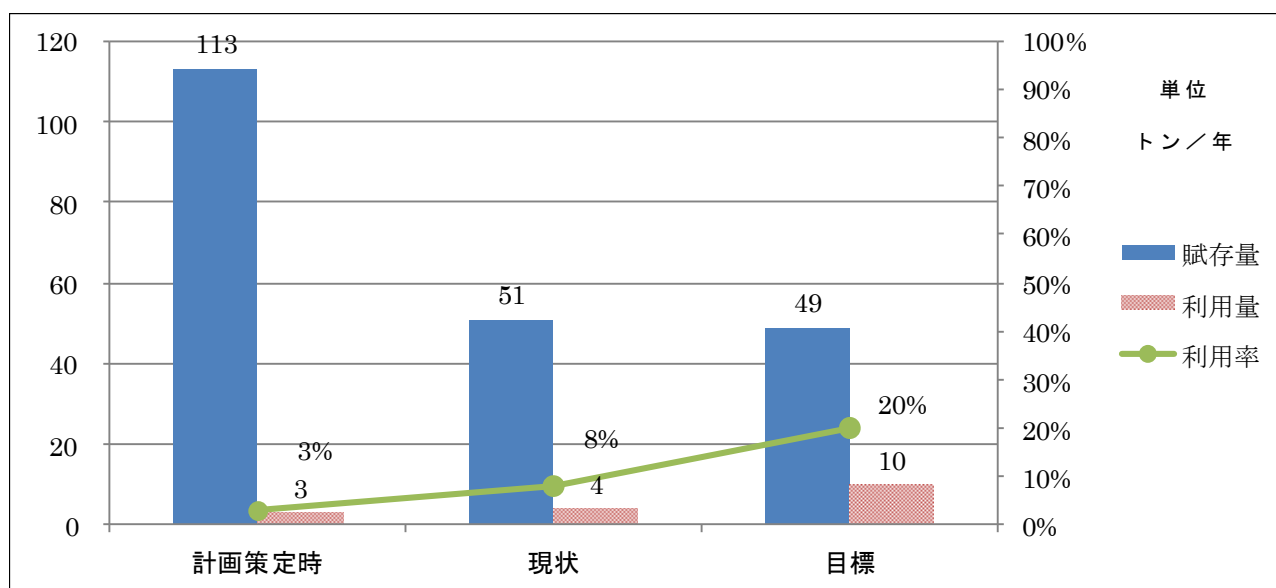
賦存量の説明について、会長と協議して内容を定めることとなった。

7 閉 会

－ 以上 －

#### (4) 事業系生ごみ

	計画策定時 2013年	現状 2018年	目標 2023年
賦存量	113	51	49
利用量 (利用率)	3 (3%)	4 (8%)	10 (20%)
未利用量	110	47	39

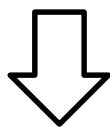


※事業系可燃ごみの排出量は年々減少傾向にあることに加え、広域組合によるごみ質の組成分析調査の結果、厨芥類の割合は策定時の24.81%から現状の11.10%へ減少しているため、賦存量は策定時の約1/2と減少しています。

#### 【現状】

◇賦存量 51 トンのうち 4 トン (8%) を利用しています。

◆排出された事業系生ごみのうち、バイオマス資源として回収されたものは全て堆肥化され再利用されています。



#### 【目標 (平成 35 年度)】

◇賦存量 49 トンのうち 10 トン (20%) を目標に利用します。

◆堆肥化の継続とメタンガス化による電力・熱利用を検討します。